

施設介護や居宅介護に携わる介護者のための 介護服について

Uniform for Home Care Workers and Nursing Home Workers

(2003年3月31日受理)

近藤 信子 田岡 洋子 中川 早苗
Nobuko Kondoh Hiroko Taoka Sanae Nakagawa

Key words : 介護服, 介護服評価因子, 4 類型

要 約

施設介護や居宅介護に携わる介護者のための介護用ユニフォームについて検討するため、京都府・岡山県・大分県内の施設で介護に携わっている介護者を対象に1999年8～10月にかけて配票留置法による質問紙調査を行った。有効回収数は327票で回収率は81%であった。主な質問項目は、現在着用している介護服の季節別アイテム、望ましい介護服の評価、望ましい介護服の季節別アイテムなどである。

介護服の評価23項目（5段階評定尺度）に対し因子分析を行って、「機能的着用感」「おしゃれ感」「素材特性」「容儀性」「標識性」の5因子が抽出された。介護に携わっている者の介護服に対する考えの似たものどうしをグループ化するため5因子の因子得点をもとにクラスター分析を行った結果、4類型に分けることができた。「機能性・審美性重視型（33.0%）」「機能本位型（17.0%）」「素材重視型（33.3%）」「無関心型（16.7%）」である。（ ）内は構成比を示す。

1. 緒 言

介護の社会化を目指す介護保険制度の実施に伴い、介護の現場で活躍する介護者はこれからますます増加するものと思われる。現在、施設介護や居宅介護に携わっている介護者が着用している介護服の多くは、市販のユニフォームやジャージーなどのスポーツウェア、あるいは私服などで問題点も多く必ずしも介護に適しているとは思えない。

本研究では、実際に介護に携わっている介護者を対象に、現状の介護服の問題点や介護服に求められるニーズなどについて意見を収集し、介護者にとっても介護される高齢者にとっても望ましい介護服について明らかにすることを目的とした。本報では介護服の評価項目への反応をもとに調査対象者を類型化し、それぞれの違いを検討した。

2. 方 法

(1) 調査の概要

京都府・岡山県・大分県内の施設で介護に携わっている介護者を対象に1999年8月から10月にかけて配票留置法による質問紙調査を行った。有効回収数は327票で回収率は81%であった。

(2) 質問紙の内容

大別すると①現状の介護服、②望ましい介護服に関する二つの内容からなる。

①には、「介護服の有無」「現状の季節別着用アイテム」「現状の介護服に対する問題点（自由記述）」に関する質問を設けた。②では、「介護服の評価」「介護服のイメージ・色柄」「望ましい季節別着用アイテム」に関する質問を設けた。

(3) 介護服の評価項目

着装評価に必要なデザイン要素(身体的要素, 心理的要素, 経済的要素)を含む23項目を設定し, 5段階尺度評定とした。「重要である」は5点, 「やや」4点, 「どちらともいえない」3点, 「あまり」2点, 「重要でない」1点を与えて得点化した。

(4) 分析方法

今回は次の分析結果を報告する。

調査データを項目別に単純集計し, 調査対象者の基本属性や就業状況などを明らかにした。次に, 介護服の評価23項目に対して因子分析(主因子法)を行い, 介護服に対する評価の基底となる因子を抽出した。取り上げた因子の因子得点をもとにクラスター分析(Ward法)を行い, 介護服の評価に対して調査対象者を類型化した。さらに, 分散分析を行い, 類型間の介護服評価23項目各々に対する回答の違いを検討した。

3. 結果および考察

(1) 調査対象者の概要

基本属性, 就業状況について表1・表2に示す。20歳代が最も多いが, 30歳代・40歳代・50歳代の割合もそれぞれ20%前後を占めており, 幅広い年齢層からの意見が得られた。

勤務施設は特別養護老人ホームが最も多かった。職種については介護職が58.7%と最も多く, 3年以上の経験者が過半数であった。

(2) 介護服に対する評価因子の抽出

介護服の評価23項目への反応を因子分析(主因子法)した結果, 固有値1以上の5因子が得られた(表3)。第1因子には, 「着心地や肌触りのよいもの」「身体に合っ
て動きやすいもの」などの項目の因子負荷量が高いことから「機能的着用感」因子, 第2因子には, 「服の組み合わせを工夫しやすいもの」「自分の体型をカバーし格好良く見えるもの」などの負荷量が高く「おしゃれ感」因子, 第3因子には, 「防臭作用のある生地を用いたもの」「抗菌・制菌作用のある生地を用いたもの」などの負荷量が高く「素材特性」因子と解釈した。第4因子には, 「見た感じがよく美しいもの」「まわりに好感がもたれるもの」などの負荷量が高く「容儀性」因子とした。

表1 基本属性

基本属性	実数	%	
性別	男	64	19.6
	女	257	78.6
	不明	6	1.8
年齢	20歳未満	10	3.1
	20歳代	112	34.3
	30歳代	52	15.9
	40歳代	67	20.5
	50歳代	61	18.7
	60歳代	18	5.5
	70歳代	1	0.3
不明	6	1.8	

表2 就業状況

介護従事形態	実数	%	
施設	特別養護老人ホーム	165	50.5
	養護老人ホーム	13	4.0
	軽費老人ホーム	6	1.8
	老人保健施設	58	17.7
	老人デイサービスセンター	42	12.8
	老人病院	4	1.2
	老人福祉センター	2	0.6
	市町村在宅ヘルパー	14	4.3
	療養型医療施設	20	6.1
	不明	3	0.9
職種	介護職	192	58.7
	看護職	37	11.3
	事務職	25	7.6
	その他	67	20.5
勤務形態	常勤	241	73.7
	契約	24	7.3
	パート	47	14.4
	ボランティア	1	0.3
	その他	8	2.4
職務年数	1年未満	38	20.0
	1年以上3年未満	47	24.7
	3年以上5年未満	41	21.6
	5年以上10年未満	34	17.9
	10年以上	26	13.7
	不明	4	2.1

第5因子には、「施設の職員であることがわかりやすいもの」への負荷量が高く「標識性」因子と解釈した。29.0%、8.6%、6.0%、5.6%、5.1%で累積寄与率は54.3%であった。

なお、第1因子から第5因子までの寄与率は、それぞれ

表3 因子分析結果

因子（寄与率）	項目	負荷量
第1因子 機能的着用感 (29.0%)	着心地や肌触りがよいもの	0.690
	着脱しやすいもの	0.576
	身体に合って動きやすいもの	0.555
	暑さ寒さを調節しやすいもの	0.555
	洗濯しやすくアイロン不要なもの	0.481
	飽きのこないデザインのもの	0.448
	清潔さが保て汚れにくいもの	0.409
	作業がしやすく機能的なもの	0.379
	それぞれの作業にあったデザインのもの	0.346
第2因子 おしゃれ感 (8.6%)	服の組み合わせを工夫しやすいもの	0.689
	自分の体型をカバーし格好良く見える	0.543
	男女でデザインが異なるもの	0.485
	着用者の年齢に応じたデザインのもの	0.470
	仲間との連帯感を高められるもの	0.453
第3因子 素材特性 (6.0%)	防臭作用のある生地を用いたもの	0.849
	抗菌、制菌作用のある生地を用いたもの	0.721
	ニットのような伸縮素材のもの	0.436
第4因子 容儀性 (5.6%)	見た感じがよく美しいもの	0.632
	まわりに好感がもたれるもの	0.528
	型くずれしない丈夫なもの	0.435
	気持ちの切り替えができ気分が引き締まる	0.436
第5因子 標識性 (5.1%)	施設の職員であることがわかりやすいもの	0.675
累積寄与率 (54.3%)		

(3) 介護服に対する評価の類型化

介護に携わっている介護者の介護服に対する考えの似たものどうしをグループ化するために、上記の5因子の23項目すべての因子得点をもとにクラスター分析を行った。その結果、4クラスターに分けることができた。4クラスターの5因子に対する平均因子得点を図1に示す。

なお、これらの4クラスター間において介護服の評価23項目各々に対する回答に違いがあるか否かを分散分析したところ、23項目すべてに危険率1%で有意差が認められた(図2)。

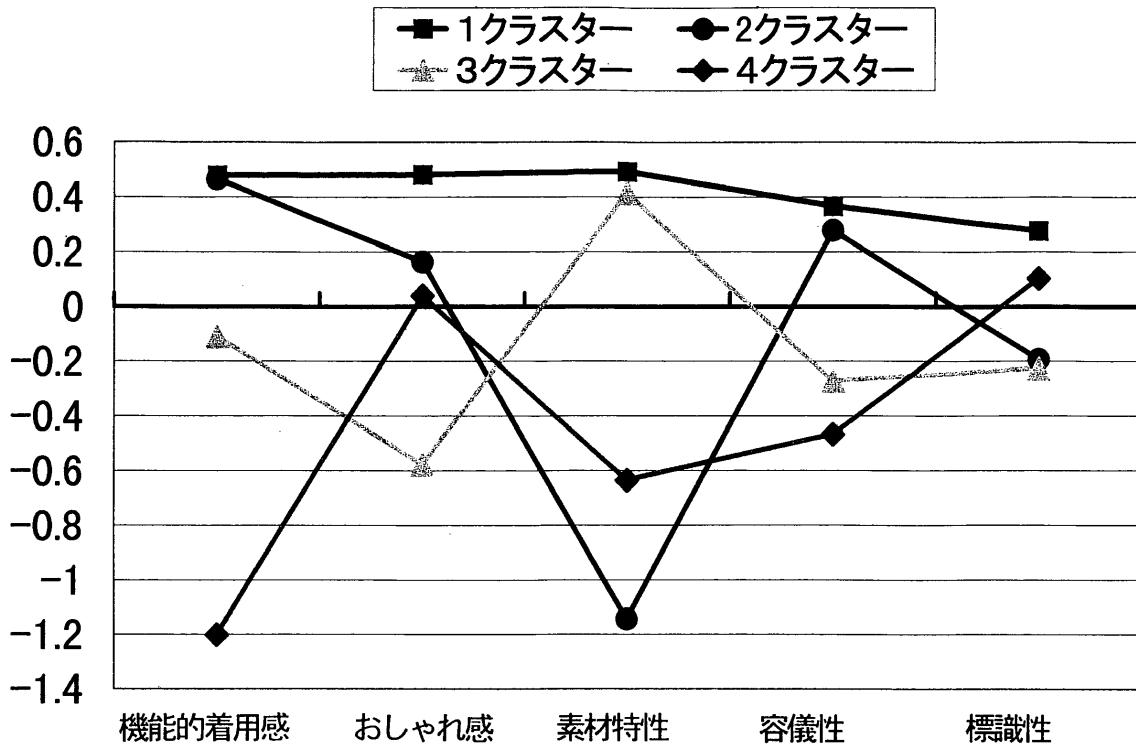


図1 「介護服の評価」 クラスター別因子得点

各クラスターに属する調査対象者の特徴をみると、第1クラスターは「機能的着用感」「おしゃれ感」「素材特性」「容儀性」「標識性」のいずれにも因子得点は高い値を示している。さらに、重要であるとする項目についても、いずれも他のクラスターよりは5段階尺度で得た得点の平均値が高くなっている。特に高い得点項目は「肌触りがよいもの」「洗濯しやすいもの」「作業しやすく機能的なもの」そして「まわりに好感を与えるもの」「型くずれしないもの」などであることから、第1クラスターを「機能性・審美性重視型 (33.0%)」と解釈した。()内の数値はいずれも構成比を示す(図3)。第2クラスターは「機能的着用感」に高い値を示しているが、他の因子の平均得点は低い。重要であるとする項目についても「暑さ寒さを調節しやすいもの」「動きやすいもの」「作業しやすく機能的なもの」「肌触りがよいもの」となっており第2クラスターを「機能本位型 (17.0%)」と解釈した。第3クラスターの重要であるとする項目については、「抗菌・制菌作用の生地のもの」「防臭作用のある生地のもの」そして「動きやすいもの」「作業しやすく機能的なもの」となっているが、「素材特性」因子の平均値のみが高い値を示している。そのため、第3クラスターを「素材重視型 (33.3%)」と解釈した。第4クラスターは「標識性」の平均因子得点がやや高いものの、他はいずれも低い値を示しており「無関心型 (16.7%)」とした。

4類型で5段階尺度による評定平均値が最も高かった項目は「作業しやすく機能的なもの」であった。機能性・審美性重視型では4.99、機能本位型では4.96、素材重視型では4.86、無関心型でも第1因子を構成する他の項目の平均値はあまり高くはなかったが、この項目については4.57と高い値を示した。今回の調査では「現状の介護服に対する問題点」についても自由記述式による回答の質問を設けた。その記述から、介護に携わる介護者が指摘する「作業しやすく機能的」とは、次のような内容が含まれていることが伺えるので説明を加える。ワンピースよりも上衣と下衣の組み合わせのほうが望ましい。下衣はスカートよりもヒップにゆとりのあるパンツが動きやすくよい。また、「ファスナーで、離着床時などに施設利用者の肌を傷つけることがある」あるいは「長いエプロンの裾を踏んで転倒しそうになった」などの記述から危険の少ない安全なものを望んでいることが伺える。

今回の調査では「現状の介護服に対する問題点」についても自由記述式による回答の質問を設けた。その記述から、介護に携わる介護者が指摘する「作業しやすく機能的」とは、次のような内容が含まれていることが伺えるので説明を加える。ワンピースよりも上衣と下衣の組み合わせのほうが望ましい。下衣はスカートよりもヒップにゆとりのあるパンツが動きやすくよい。また、「ファスナーで、離着床時などに施設利用者の肌を傷つけることがある」あるいは「長いエプロンの裾を踏んで転倒しそうになった」などの記述から危険の少ない安全なものを望んでいることが伺える。

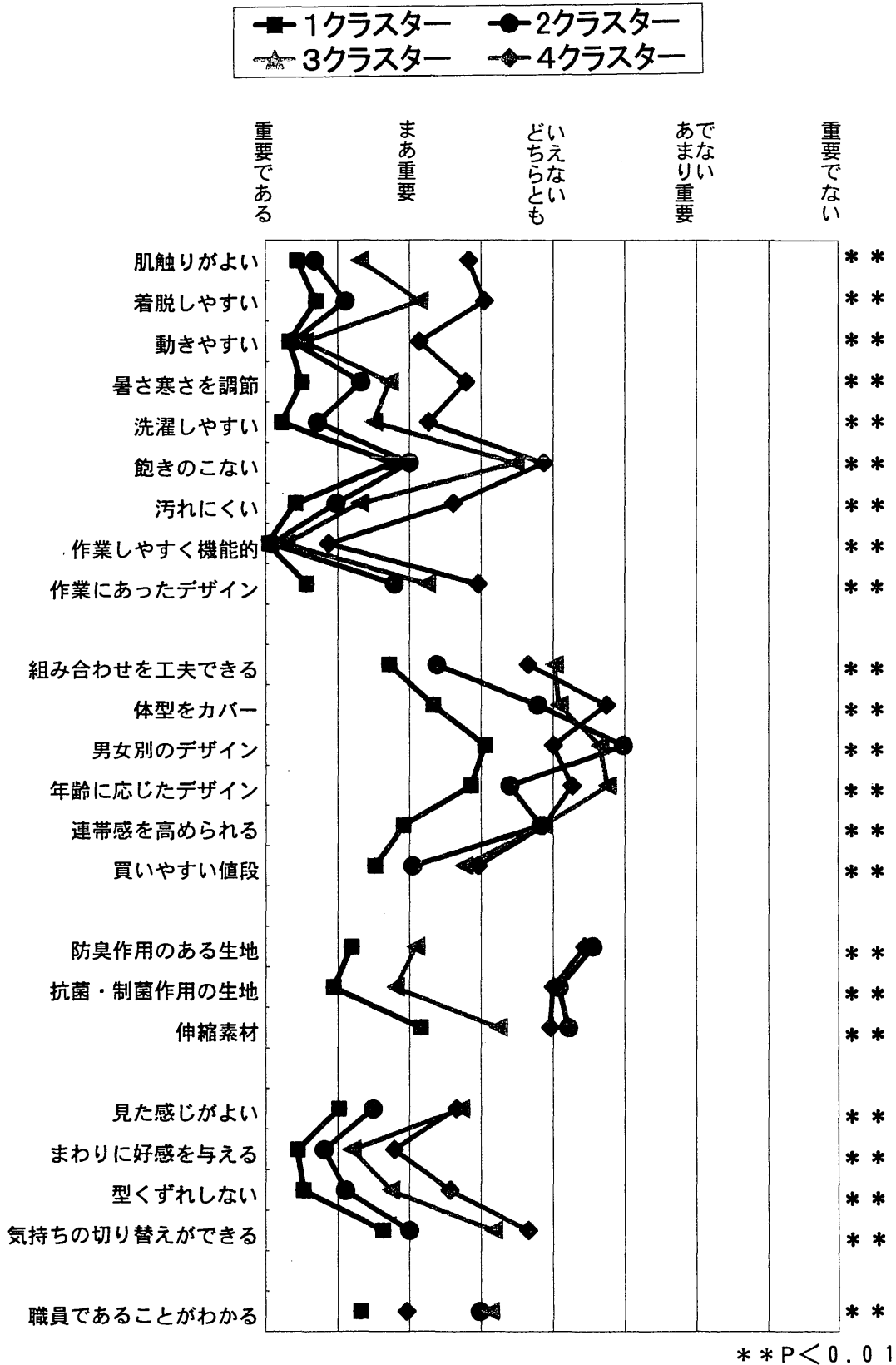


図2 「介護服の評価」 クラスター別評定尺度得点

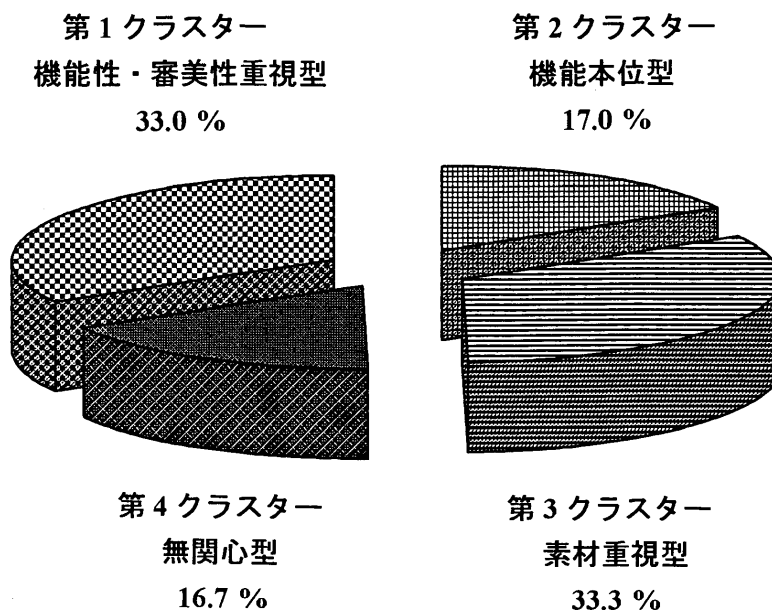


図3 「介護服の評価」からみた調査対象者の類型

以上に述べたように、介護服の基準となる因子が抽出され、それらの因子得点をもとにクラスタ分析を行った結果、類型化され、それぞれの違いを明らかにすることができた。これによって、介護に携わる介護者が望ましいとする介護服の概要をある程度把握することができたものと考えられる。

本報告は、財団法人日本ユニフォームセンターからユニフォーム基礎研究助成金を交付されて行った一部である。

報告を終えるにあたり、アンケート調査にご協力くださった多数の方々に深謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 田岡洋子, 近藤信子, 福村愛美, 中川早苗: 施設介護や居宅介護に携わる介護者のためのユニフォームについて, 日本繊維機械学会第53回年次大会研究発表論文集, 124-129 (2000)